

## 北斎 大なる山岳

すみだ北斎美術館 23.06.20~07.23 07.25~08.27 (前後期で展示替え)

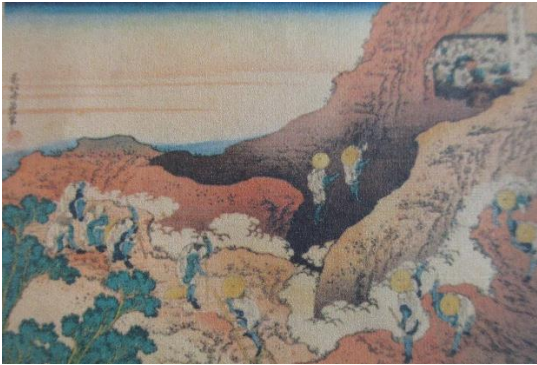


「富士山」は、日本最高峰にして古くから信仰の対象となり、また浮世絵など芸術作品の題材として多く採用され、日本のみならず西洋の芸術に影響を与えてきた。

そうした文化面で高い評価を受け、2013年に世界文化遺産に登録されてから今年には10周年にあたる。

浮世絵師「葛飾北斎」は、「富士山」をはじめとして、現在でも百名山として人気の山から、江戸時代に大阪に作られた人工の山「天保山」に至るまで日本列島各地のさまざまな山を描いている。こうした「北斎」の制作背景には近代登山が始まるはるか以前から信仰や生業のために登ってきた日本人と山との深いつながりがある。

本展の企画は、「北斎」の描いた「山」を通して、山の信仰、生業、伝説や怪談を紹介し、日本人と山との関わりを見て行くとともに、「北斎」による多彩な山の表現とその魅力に迫るものである。



《富岳三十六景 諸人登山》



《諸国名橋奇覧 足利行道山》



《諸国名橋奇覧 天保山》



《魚屋北溪 諸国名所 備前稻佐山》